令和７年度
生駒市立病院　実施状況調査報告書

目 次

診療科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

病床数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

人員体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

質の高い医療の提供・・・・・・・・・・・・・・・9

地域完結型の医療体制構築への寄与・・・・・１５

救急医療の充実・・・・・・・・・・・・・・・１９

小児医療の充実・・・・・・・・・・・・・・・２３

災害時医療の確保・・・・・・・・・・・・・・・２３

予防医療の啓発・・・・・・・・・・・・・・・２３

市民参加による運営・・・・・・・・・・・・・２５

環境に配慮した運営・・・・・・・・・・・・・２５

収支・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)		令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
診療科目	14 診療科 内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科	19 診療科 内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 糖尿病内科 血管外科 リウマチ科 皮膚科 眼科 診察日・診察時間 ・診察日 月曜日～土曜日 （祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く） ・診察時間 午前　9：00～12：00 夕方　17：00～19：00(土曜日除く） ・受付時間 午前　8：00～12：00 夕方　16：30～19：00(土曜日除く）	19 診療科 内科 消化器内科 循環器内科 外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 小児科 腎臓泌尿器科 産婦人科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 麻酔科 糖尿病内科 血管外科 リウマチ科 皮膚科 眼科 診察日・診察時間 ・診察日 月曜日～土曜日 （祝日、年末年始(12/31～1/3)を除く） ・診察時間 午前　9：00～12：00 夕方　17：00～19：00(土曜日除く） ・受付時間 午前　8：00～12：00 夕方　16：30～19：00(土曜日除く）
	上記以外の診療科については、市民ニーズ等の必要に応じて、指定管理者と協議し、追加できるものとします。	・既存の診療科に加え、糖尿病内科・眼科を追加標榜します。なお、眼科は糖尿病網膜症等における連携を図るため標榜するものです。 ・院内の診療科間の連携及びより高次、専門性の高い医療機関との連携を進めます。	・既存の診療科に加え、糖尿病内科及び眼科を新たに標榜しました。なお、眼科は糖尿病網膜症等における連携を図るため標榜したものです。 ・院内の診療科間の連携をさらに深め、より高次、専門性の高い医療機関との連携体制（脳神経外科、心臓血管外科等における近畿大学奈良病院や奈良県総合医療センターとの連携体制）を推進しました。

令和７年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

＜診療科目＞
令和７年度において、糖尿病内科及び眼科の２診療科を４月１日から追加標榜

＜その他＞

内容	開始時期	診察時間	R7	R6
一般診療（内科系、外科系を含めて総合的に診察）	H27.7～	月～金 17:00～ 19:00	1,426 件	1,651 件
大学の腎臓泌尿器科外科教授による特別外来	H27.9～	月２回（予約制）	239 件	268 件
ペイン（痛み）外来（麻酔科）	H27.11～	週２回 AM	342 件	356 件
フットケア外来（形成外科）	H28.6～	週３回 AM	403 件	395 件
乳腺・甲状腺外来（外科）	H29.10～	週１回 AM	904 件	862 件
小児アレルギー外来（小児科）	H30.12～	週１回 PM	273 件	100 件
アンチエイジング外来（皮膚科）	H29.4～	週２回 PM	89 件	89 件

＜高次、専門性の高い医療機関との連携実績＞　P12 参照

課題
「生駒市医療のまちづくりビジョン」に掲げた「社会変化や課題への具体的な対応」に向け、生駒市立病院として取り組む診療体制を検討していく必要がある。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)		令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
病床数	病床数　210 床 ICU　7 床 小児科　20 床 産婦人科　20 床 内科系　79 床 外科系　84 床	（令和 8 年 3 月 31 日） 病床数　210 床 小児科　5 床 産婦人科　19 床 内科系　87 床 外科系　91 床 HCU　8 床 病棟編成 5 病棟、　7 対 1 看護基準（一般） 4 対 1 看護基準（HCU） ・新興感染症の感染拡大となった際は、国や県の要請に基づき、ゾーニングを行うとともに、より多くの検査を行える体制整備や病床の確保を目指します。 ・奈良県の令和 6 年度西和医療圏における病床の整備にかかる事前協議について、令和 6 年 12 月に 20 床の増床が承認されたことから、病院全体の機能強化を進めます。（運用開始は令和 9 年度を予定）	（令和 8 年 3 月 31 日） 病床数　210 床 小児科　5 床 産婦人科　19 床 内科系　87 床 外科系　91 床 HCU　8 床 病棟編成 5 病棟、7 対 1 看護基準（一般） 4 対 1 看護基準（HCU） ・病床利用率の向上に向け、救急患者の積極的な受け入れをはじめ、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みました。また、小児も含めた入院医療に対応できるよう小児科の常勤医師を引き続き確保しています。 新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れのための病床については、感染状況に応じて受入体制を引き続き整備しています。 ・小児科の救急医療や入院医療の体制を充実させ、北和小児科二次輪番体制に寄与しています。 ・県が公募した病床整備計画に応募し、20 床の病床配分（小児科・産婦人科）を受けた（R9.4 運用開始）ことを踏まえ、病院全体の機能強化として、人員確保に努めました。

令和7年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

4階西病棟
　産婦人科・形成外科・一般内科の女性の一般患者を対象とした混合病棟

4階東病棟
　小児科、整形外科、腎臓泌尿器科、脳神経外科、形成外科、一般内科

5階西病棟
　一般内科、感染症

5階東病棟
　外科、消化器内科、循環器内科

	R7	R6	増減
1日平均病床利用率	78.1%	75.9%	2.2%
1日最大稼働病床数	201床	200床	1床
1日最大稼働病床利用率	95.7%	95.2%	0.5%
月平均新入院患者数	366.9人	329.8人	37.1人
平均在院日数	13.6日	14.9日	△ 1.3日

※病床利用率は、210床に対する利用率を記載。

○市立病院の設立目的である市内の小児医療の充実のため、北和小児科二次輪番体制へ令和3年10月以降参加している。

○R6年度に引き続き、75%を超える病床利用率を維持している。
※総務省の「新公立病院改革ガイドライン」において、病床利用率が3年間連続して70%を割り込むと、病床削減や診療所への移行、再編なども視野に抜本的な見直しをプランに盛り込むように要請されています。

人員体制

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)

人員体制については、開院当初は、1 日平均想定患者数（外来 300 名、入院 140 名と仮定）による医療法規定人員数に基づき、次のとおり整えます。

職種	人数
医師	25名
看護師	80名
薬剤師	6名
理学療法士	3名
作業療法士	
言語聴覚士	
放射線技師	6名
検査技師	7名
栄養士	2名
看護助手	29名
事務職員等	40名
合計	198名

令和 7 年度　事業計画

（令和 8 年 3 月 31 日）

		常勤
医師	内科	3 名
	消化器内科	0 名
	循環器内科	1 名
	外科	3 名
	脳神経外科	1 名
	整形外科	1 名
	形成外科	2 名
	小児科	5 名
	腎臓泌尿器科	2 名
	産婦人科	5 名
	リハビリテーション科	0 名
	放射線科	0 名
	救急科	0 名
	麻酔科	2 名
	糖尿病内科	1 名
	血管外科	0 名
	リウマチ科	0 名
	皮膚科	1 名
	眼科	0 名
	計	27 名
看護師	外来部門	60 名
	入院部門	126 名
	内）准看護師	1 名
	内）助産師	27 名
	内）保健師	0 名
	計	186 名
その他	薬剤師	15 名
	理学療法士	16 名
	作業療法士	1 名
	言語聴覚士	2 名
	放射線技師	12 名
	検査技師	13 名
	栄養士	4 名
	看護助手	21 名
	臨床工学技士	9 名
	事務職員等	68 名
	計	161 名
合計		374 名

※リウマチ科は整形外科医が兼務。

○医療従事者の確保の方法について

（医師の確保）

特に常勤医師が不足している整形外科等の常勤医師の確保、増員を図り、入院医療を充実させます。

協力型臨床研修病院の指定を受け、奈良県総合医療センターの協力施設として研修プログラムへの参加を予定しています。研修プログラムの充実、若手医師のスキルアップを図るための指導医の確保等環境整備に取り組みます。

医師事務作業補助者を増員し、医師の業務負担の軽減を図るなど、医師の働き方改革の取組として、引き続き、勤務環境の改善を行います。

（看護師、医療スタッフ等の確保）

・引き続き、学生実習の積極的な受け入れ、院内保育所の運営、多様な勤務形態の導入等を行います。

・研修制度の充実や病院が必要と判断した資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に継続して取り組みます。

令和 7 年度　事業報告

（令和 8 年 3 月 31 日）

		常勤
医師	内科	3 名
	消化器内科	0 名
	循環器内科	1 名
	外科	3 名
	脳神経外科	1 名
	整形外科	1 名
	形成外科	1 名
	小児科	5 名
	腎臓泌尿器科	2 名
	産婦人科	5 名
	リハビリテーション科	0 名
	放射線科	0 名
	救急科	0 名
	麻酔科	2 名
	糖尿病内科	1 名
	血管外科	0 名
	リウマチ科	0 名
	皮膚科	1 名
	眼科	0 名
	計	26 名
看護師	外来部門	55 名
	入院部門	114 名
	内）准看護師	1 名
	内）助産師	21 名
	内）保健師	0 名
	計	169 名
その他	薬剤師	14 名
	理学療法士	13 名
	作業療法士	2 名
	言語聴覚士	2 名
	放射線技師	12 名
	検査技師	12 名
	栄養士	5 名
	看護助手	21 名
	臨床工学技士	8 名
	事務職員等	66 名
	計	155 名
合計		350 名

※リウマチ科は整形外科医が兼務

○医療従事者の確保の方法について

（医師の確保）

常勤医師の入職に関して

・医局人事　　2 名

・勤務希望者　　2 名

協力型臨床研修病院の指定を受け、令和 8 年度以降も医師の確保につながるよう準備しています。

医師事務作業補助者により、医師の業務負担軽減を図るなど勤務環境改善の取組を行いました。

（看護師、医療スタッフ等の確保）

・学生実習の受け入れ、院内保育所の運営、多様な勤務形態の導入等を行いました。

・研修制度の充実や資格取得のための支援など、専門的な知識と技術を持った人材の確保・育成に取り組みました。

令和７年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

		R7		R6		増減	
		常勤	常勤換算	常勤	常勤換算	常勤	常勤換算
医師	内科	3	6.12	3	4.89	0	1.23
	消化器内科	0	0.66	0	0.68	0	△ 0.02
	循環器内科	1	1.02	1	1.09	0	△ 0.07
	外科	3	3.55	3	3.49	0	0.06
	脳神経外科	1	1.08	1	1.11	0	△ 0.03
	整形外科	1	1.93	1	1.91	0	0.02
	形成外科	1	1.53	2	2.25	△ 1	△ 0.72
	小児科	5	5.00	5	5.00	0	0.00
	腎臓泌尿器科	2	2.45	2	2.43	0	0.02
	産婦人科	5	7.42	4	5.50	1	1.92
	リハビリテーション科	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	放射線科	0	0.66	0	0.61	0	0.05
	救急科	0	2.53	0	2.95	0	△ 0.42
	麻酔科	2	2.00	2	2.00	0	0.00
	糖尿病内科	1	1.00	－	－	1	1.00
	血管外科	0	0.22	0	0.00	0	0.22
	リウマチ科	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	皮膚科	1	1.00	1	1.00	0	0.00
	眼科	0	0.01	－	－	0	0.01
	計	26	38.18	25	34.91	1	3.27
看護師	外来部門	55	61.91	56	62.11	△ 1	△ 0.20
	入院部門	114	120.51	116	121.98	△ 2	△ 1.47
	内）准看護師	1	1.00	1	1.00	0	0.00
	内）助産師	21	21.80	24	24.04	△ 3	△ 2.24
	内）保健師	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	計	169	182.42	172	184.09	△ 3	△ 1.67
その他	薬剤師	14	15.38	15	16.38	△ 1	△ 1.00
	理学療法士	13	13.00	14	14.00	△ 1	△ 1.00
	作業療法士	2	2.53	1	1.53	1	1.00
	言語聴覚士	2	2.00	2	2.20	0	△ 0.20
	放射線技師	12	12.00	11	11.00	1	1.00
	検査技師	12	12.00	11	11.00	1	1.00
	栄養士	5	5.00	3	3.00	2	2.00
	看護助手	21	22.43	15	17.23	6	5.20
	臨床工学技士	8	8.00	9	9.00	△ 1	△ 1.00
	事務職員等	66	72.91	69	76.43	△ 3	△ 3.52
	計	155	165.25	150	161.77	5	3.48
合計		350	385.85	347	380.77	3	5.08

＜令和 8 年 3 月 31 日現在の非常勤職員数＞
医師　99 名、看護師　18 名、その他 18 名
（令和 7 年 3 月 31 日現在の非常勤職員数 医師 96 名、看護師 16 名、その他 23 名）

＜医師の業務軽減＞
・医師事務作業補助者 12 名（内科系 3 名、産婦人科 2 名、形成外科・小児科・皮膚科 2 名、泌尿器科 1 名、脳神経外科 1 名、整形外科 1 名、外科 1 名、予約センター1 名）
（令和 7 年 3 月 31 日現在の医師事務作業補助者数 15 名）

＜看護師、医療スタッフ等の確保対策＞
・院内保育所の設置　利用スタッフ数　47 名
（令和 6 年度 41 名）
・看護実習生の受入　1,221 名（令和 6 年度 798 名）
・時短勤務 20 名（令和 6 年度 17 名）
・産休・育休利用　24 名（令和 6 年度 17 名）
・看護師の研修プログラム、奨学金制度
・入職時研修、新人研修

○協力型臨床研修病院の指定を受け、臨床研修医の受け入れ体制を整えるなど、医師の確保に向けた準備を進めている。

課題
　入院医療を充実させるため、引き続き不足する内科、脳神経外科、整形外科の常勤医師を確保する必要がある。

　増床する病床の運用開始に向けて計画的な人員体制の整備が必要。

<table>
<tr><th colspan="2">病院事業計画(平成27年11月改定)</th><th>令和7年度　事業計画</th><th>令和7年度　事業報告</th></tr>
<tr><td>患者数</td><td></td><td>1日平均患者数
<table><tr><th></th><th>入院</th><th>外来</th></tr><tr><td>4月</td><td>157.0人</td><td>280.0人</td></tr><tr><td>5月</td><td>158.0人</td><td>280.0人</td></tr><tr><td>6月</td><td>161.0人</td><td>285.0人</td></tr><tr><td>7月</td><td>162.0人</td><td>285.0人</td></tr><tr><td>8月</td><td>163.0人</td><td>290.0人</td></tr><tr><td>9月</td><td>165.0人</td><td>290.0人</td></tr><tr><td>10月</td><td>164.0人</td><td>290.0人</td></tr><tr><td>11月</td><td>165.0人</td><td>290.0人</td></tr><tr><td>12月</td><td>165.0人</td><td>300.0人</td></tr><tr><td>1月</td><td>172.0人</td><td>315.0人</td></tr><tr><td>2月</td><td>173.0人</td><td>315.0人</td></tr><tr><td>3月</td><td>175.0人</td><td>320.0人</td></tr><tr><td>年間平均</td><td>165.0人</td><td>295.0人</td></tr></table>
○入院･外来患者数の増加に向けた取組
・入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域の医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施することにより、入院・外来患者数の増加を目指します。

・救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みます。

（市民への周知の取組）
・院内の広報委員会による広報活動の強化
・ホームページ、LINE公式アカウント、病院だより等による広報活動の推進
・医療講演会（自治会等各種団体への出張講座含む）の推進

（地域の医療機関への周知の取組）
・地域医療連携室による地域の医療機関への積極的な情報提供を推進します。</td><td>1日平均患者数
<table><tr><th></th><th>入院</th><th>外来</th></tr><tr><td>4月</td><td>162.2人</td><td>277.2人</td></tr><tr><td>5月</td><td>153.6人</td><td>289.1人</td></tr><tr><td>6月</td><td>145.5人</td><td>294.5人</td></tr><tr><td>7月</td><td>155.6人</td><td>294.6人</td></tr><tr><td>8月</td><td>161.8人</td><td>289.5人</td></tr><tr><td>9月</td><td>172.5人</td><td>300.0人</td></tr><tr><td>10月</td><td>154.5人</td><td>323.9人</td></tr><tr><td>11月</td><td>161.3人</td><td>327.7人</td></tr><tr><td>12月</td><td>171.6人</td><td>319.5人</td></tr><tr><td>1月</td><td>181.1人</td><td>286.4人</td></tr><tr><td>2月</td><td>178.2人</td><td>303.6人</td></tr><tr><td>3月</td><td>170.1人</td><td>290.9人</td></tr><tr><td>年間平均</td><td>163.9人</td><td>299.7人</td></tr></table>
○入院・外来患者数の増加に向けた取組
小児も含めた入院医療に対応できるよう小児科の常勤医師を引き続き確保し、救急を含む外来診療体制の維持のため、非常勤医師を確保しました。
また、救急患者を積極的に受け入れ、地域医療機関との病病・病診連携を推進し、さらに、広報活動や対面での医療講演会を実施し、入院、外来患者数の増加を目指しました。

（市民への周知の取組）
・広報委員によるホームページ、LINE公式アカウント等のチェック、随時更新の実施。
LINEアカウントで様々な情報を発信するとともに、イベント会場での周知など、具体的な内容など、友だち登録の拡大に努めました
LINE公式アカウント登録者数
2,466人（令和8年3月31日現在）
〈LINE公式アカウントの掲載例〉
・各月の外来診察予定のお知らせ
・診療体制に関するお知らせ
・市立病院主催イベントのお知らせ

・病院だより発刊　毎月600部発刊

・医療講演会
73講座　参加者2,387名
（内、生駒市医師会や自治会等各種団体への出張講座　7講座　参加者505名含む）

・どこでも講座・出前授業
8講座　参加者526名

（地域の医療機関への周知の取組）
・地域の医療機関への情報提供等訪問回数
1,682件、 211施設
（令和6年度　1,295件、 218施設）</td></tr>
</table>

令和７年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

＜入院＞　（注）

	R7		R6		増減	
	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均
内科	14,142	38.7	13,496	37.0	646	1.7
消化器内科	1,720	4.7	1,482	4.1	238	0.6
循環器内科	5,117	14.0	5,429	14.9	△ 312	△ 0.9
外科	18,145	49.7	20,356	55.8	△ 2,211	△ 6.1
脳神経外科	2,492	6.8	2,436	6.7	56	0.1
整形外科(リウマチ科を含む)	7,437	20.4	6,314	17.3	1,123	3.1
形成外科	3,253	8.9	3,005	8.2	248	0.7
小児科	1,827	5.0	1,358	3.7	469	1.3
腎臓泌尿器科	2,838	7.8	2,156	5.9	682	1.9
産婦人科	2,404	6.6	2,136	5.9	268	0.7
糖尿病内科	462	1.3	－	－	462	1.3
血管外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	59,837	163.9	58,168	159.4	1,669	4.6

＜外来＞　（注）

	R7		R6		増減	
	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均	延べ人数	1日平均
内科	28,007	76.7	29,145	79.8	△ 1,138	△ 3.1
消化器内科	1,850	5.1	1,972	5.4	△ 122	△ 0.3
循環器内科	5,750	15.8	5,735	15.7	15	0.1
外科	10,351	28.4	9,559	26.2	792	2.2
脳神経外科	2,042	5.6	1,904	5.2	138	0.4
整形外科(リウマチ科を含む)	10,415	28.5	10,229	28.0	186	0.5
形成外科	3,642	10.0	4,028	11.0	△ 386	△ 1.0
小児科	8,192	22.4	7,556	20.7	636	1.7
腎臓泌尿器科	8,547	23.4	8,309	22.8	238	0.6
産婦人科	10,319	28.3	9,515	26.1	804	2.2
放射線科	505	1.4	473	1.3	32	0.1
麻酔科	539	1.5	376	1.0	163	0.5
糖尿病内科	1,111	3.0	－	－	1,111	3.0
血管外科	247	0.7	189	0.5	58	0.2
皮膚科	7,782	21.3	7,901	21.6	△ 119	△ 0.3
眼科	33	0.1	－	－	33	0.1
透析	3,831	10.5	3,964	10.9	△ 133	△ 0.4
健診科・ドック	6,225	17.1	5,977	16.4	248	0.7
計	109,388	299.7	106,832	292.7	2,556	7.0

（注）
〈入院〉〈外来〉表中の患者数の 1 日平均については、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、計と内訳の計が一致しない場合があります。

○新型コロナウイルス感染症対応や救急受入などの市立病院のこれまでの取組により、入院患者数及び外来患者数が増加している。

　ホームページや LINE による病院に関するデジタルでの情報発信、病院だより発刊による紙媒体での情報発信、どこでも講座、出前授業などを通じて地域と積極的な関わりを持つようにしていることで、生駒市立病院を知ってもらう取り組みを通して患者数の増加につなげている。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○質の高い医療の提供 　生駒市の地域医療の問題点を踏まえ、政策的に実施すべき医療事業を確実に実施し、市民満足度の高い、質の高い医療を提供する。	安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、豊富なキャリアを積んだ医師や看護師、コメディカルスタッフがチーム医療で、患者にとってベストな治療・ケアを行います。 　DPC 対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図ります。 　また、病院機能評価の取得を機に、さらなる質の高い医療提供体制を目指します。 　引き続き、高齢者の医療需要にも対応するため、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組むと共に、広く PR していきます。 　患者アンケートやご意見箱の内容を反映した心温まる医療サービスの提供を目指します。 ○医療サービスについて ・手術件数（全体）　1,300 件 　外科　360 件 　整形外科　160 件 　形成外科　450 件 　腎臓泌尿器科　130 件 　産婦人科　180 件 　麻酔科　20 件 ・分娩件数　250 件 ・母親教室はニーズに対応し、自由な時間に視聴できる YouTube で開催します。 ・産科交流会 　母子同士の交流、育児情報の提供等、産後のサポートを行います。 ・市の産後ケア事業への参加を継続し、産後の授乳指導・育児相談や母子のケア等を行い、母親の育児等を支援します。 ・奈良県総合医療センターの連携施設として、非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）を行います。 ・産婦人科と小児科が連携することで、新生児、乳幼児に係る母子医療体制を整備・充実します。 ・医療機器等の整備 　必要性、採算性などを検討の上、医療機器の整備を行います。 　（導入予定機器） ・4D 超音波診断装置　【産婦人科】	安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、入院診療計画策定時から多職種が参加して最適な治療方法を策定するなど、チーム医療を実施しました。 　DPC 対象病院として、診療の標準化、透明化及び診療の質の向上を図りました。 　腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みました。 　また、公益財団法人　日本医療機能評価機構による「病院機能評価」の取得を機に、さらに質の高い医療提供体制を目指しました。 　患者の意見を可能な限り尊重したうえで、患者の思いに寄り添った医療サービスの提供を目指しました。 ○医療サービスについて ・手術件数（全体）　1,225 件 　外科　384 件 　整形外科　135 件 　形成外科　376 件 　腎臓泌尿器科　141 件 　産婦人科　136 件 　麻酔科　53 件 ・分娩件数　270 件 ・母親教室開催 　院内健診を受けている妊婦を対象に新生児ケアについて YouTube 配信(対象者のみの限定公開) ・動画本数　5 本　約 2,000 回再生 ・産科交流会 　12/7 実施　255 名参加（うちベビー87 名） ・市の産後ケア事業へ参加しました。 　サポート人数　14 名 　（院内において出産直後にショートステイを利用） ・奈良県総合医療センターの連携施設として、非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）を行いました。 ・産婦人科と小児科が連携し、新生児、乳幼児に係る母子医療体制を整備・充実しました。 ・医療機器等の整備 　必要性、採算性などを検討の上、医療機器の整備を行いました。 （導入機器） ・搬送用保育器ｲﾝｷｭｱｰﾁ(小児科/更新) ・ｲﾝﾌｧﾝﾄｳｫｰﾏ(産婦人科/増設) ・ｵｰﾄﾚﾌｹﾗﾄﾒｰﾀｰ(眼科/新規) ・ｵｰﾄ無散瞳眼底ｶﾒﾗ(眼科/新規) ・光干渉断層計(眼科/新規) ・心電計(HCU/更新) ・電子処方箋ｼｽﾃﾑ(医事課・薬局/新規) ・調剤用ｻｰﾊﾞ(薬局/更新) ・再来受付機 2 台(医事課/更新) ・運動負荷心電図測定装置(検査/更新) ・超音波診断装置(検査/更新)

令和7年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

病院機能評価　認定期間：2024年2月9日～2029年2月8日

＜科目別手術件数＞

	R7	R6	増減
外科	384	336	48
整形外科	135	148	△ 13
形成外科	376	409	△ 33
腎臓泌尿器科	141	107	34
産婦人科	136	173	△ 37
放射線科	0	9	△ 9
血管外科	0	8	△ 8
麻酔科	53	21	32
合計	1,225	1,211	14

・上記以外の件数
　心臓カテーテル件数：129件、PCI：77件、内視鏡的手術：354件
（令和6年度：心臓カテーテル：119件、PCI：76件、内視鏡的手術：333件）

・主な外科手術例
　腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術、甲状腺悪性腫瘍手術など
・主な形成外科手術例
　皮膚・皮下腫瘍摘出術、断端形成術など
・主な産婦人科手術例
　子宮体癌広汎性子宮全摘術、緊急帝王切開術など
・主な腎臓泌尿器科手術例
　膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的）、経尿道的尿管結石除去術など

＜腹腔鏡下手術＞（胸腔鏡下手術を含む）

	R7	R6	増減
件数	202	176	26

＜分娩件数＞

		R7	R6	増減
県内	市内	133	124	9
	市外	70	59	11
	計	203	183	20
県外		67	57	10
合計		270	240	30

＜助産制度の実績＞

	R7	R6	増減
件数	2	0	2

※市立病院は、児童福祉法第36条に規定する助産施設

・ハイリスク分娩への対応は、奈良県総合医療センターと連携を取っています。（件数：　9件）

＜DPC対象病院＞
　平成30年4月にDPC準備病院の届出をし、令和2年4月からDPC対象病院となりました。

＜ジェネリック医薬品＞
　使用率：　86.7%（グループ全体使用率：　88.2%）

○市の産後ケア事業に参加することで、産後の授乳指導・育児相談や母子のケア等を行い、母親の育児等を支援している。

○リスクある分娩は妊婦検診時から小児科医と情報共有し、小児科医立ち合いのもと分娩を行うなど産科と小児科が連携することで、安心して出産できる体制が整備されている。

課題
　腹腔鏡下手術の件数が増加傾向にあるが、今後もさらに患者への身体的負担が少ない低侵襲手術を推進する必要がある。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
	○主要疾病（4 疾病）に係る医療体制 がん 　地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）と連携のもと、手術療法、化学療法、放射線療法など患者の状態に応じた適切ながん治療体制、精密検査体制及び病理診断体制の充実を図ります。 脳卒中 　脳血栓溶解療法などの内科的処置を実施するとともに、外科的処置については阪奈中央病院・近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制の充実を図ります。また、脳血管疾患等の処置後の早期リハビリについても実施します。 急性心筋梗塞 　緊急の心臓カテーテル検査･PCI が 24 時間 365 日可能な体制の充実を図り、奈良県総合医療センターと連携のもと、患者の状態に応じた適切な医療を提供します。 糖尿病 　糖尿病内科を設置するとともに、かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療の充実を図ります。 ○患者満足度の向上について ・入院・外来患者アンケート調査の実施（グループ全体：年 1 回） ・退院時患者アンケート調査の実施及び対応 　アンケート調査の実施及び対応について、ホームページ等で公表し、市立病院管理運営協議会へ報告します。 ・ご意見箱の設置及び対応 　ご意見箱の意見及び対応について、ホームページ等で公表し、市立病院管理運営協議会へ報告します。 ・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 　新人職員を対象とした接遇研修をはじめ、院内スタッフ対象の接遇研修を充実します。 ・院内における接遇委員会を定期的に開催し、接遇の向上を図ります。 ・事務・コメディカル・救急救命士を対象とした他部署研修を実施します。	○主要疾病（4 疾病）に係る医療体制 がん 　地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）と連携のもと、手術療法、化学療法、放射線療法など患者の状態に応じた適切ながん治療体制、精密検査体制及び病理診断体制を確保しています。 脳卒中 　脳血栓溶解療法などの内科的処置を実施するとともに、外科的処置については阪奈中央病院・近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制を確保しています。また、脳血管疾患等の処置後の早期リハビリについても実施しています。 急性心筋梗塞 　緊急の心臓カテーテル検査･PCI が 24 時間 365 日可能な体制を確保し、奈良県総合医療センターと連携のもと、患者の状態に応じた適切な医療を提供しました。 糖尿病 　糖尿病内科を標榜し、かかりつけ医との連携のもと、糖尿病低血糖症等急性増悪時の治療、慢性合併症の治療を実施しています。 ○患者満足度の向上について ・グループ全体で、令和 7 年度入院・外来患者アンケート調査を 10～11 月に実施 ・退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。(回答総数　484 件) ・ご意見箱の内容に対応 　ご意見箱の内容に対して、対応が必要な案件については、迅速に対応しました。 　令和 7 年度ご意見箱意見総数 　入院 59 件、外来 31 件　　合計 90 件 ・院内スタッフ対象の接遇研修の実施 　4/2　新入職員向け接遇研修 　朝礼において、職員対象に接遇向上の周知 ・院内における接遇委員会を月 1 回開催 　(月 1 回身だしなみチェックなどを実施) ・新規入職者の事務・コメディカル・救急救命士を対象とした他部署研修を実施

令和 7 年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題
○主要疾病（4 疾病）に係る医療体制 ＜がん＞ ・手術件数：令和 7 年度 102 件（令和 6 度 111 件） ・がん患者の治療により生じる合併症や機能障害に対する早期回復等を図る取組として、医師、看護師、リハビリスタッフ（3 名）によるがんリハビリテーションを実施しています。 がん登録件数：令和 7 年度 208 件(令和 6 年度 182 件) ・他病院との連携実績 近畿大学奈良病院 21 件、奈良県総合医療センター15 件 （令和 6 年度：近畿大学奈良病院 26 件、奈良県総合医療センター18 件、市立奈良病院 1 件） ＜脳卒中＞ ・他病院との連携実績 近畿大学奈良病院 4 件、奈良県総合医療センター9 件、阪奈中央病院 10 件、市立奈良病院 10 件、野崎徳洲会病院 10 件、石切生喜病院 13 件 （令和 6 年度：近畿大学奈良病院 3 件、奈良県総合医療センター10 件、阪奈中央病院 7 件、市立奈良病院 5 件、野崎徳洲会病院 6 件、石切生喜病院 9 件） ＜急性心筋梗塞＞ ・心臓カテーテル検査 129 件、PCI 77 件 （令和 6 年度：心臓カテーテル検査 119 件、PCI 76 件） ＜入院・外来アンケート調査＞ 患者満足度（総合評価の評点） （主なアンケート分析結果） ・患者満足度が高く、総合評価への影響が大きい項目 医師及び看護師の対応で、患者の不安や要望への傾聴や患者が理解できるような説明など患者への配慮 ・患者満足度が低く、総合評価への影響が大きい項目 外来の待ち時間や、入院時のお薬についての副作用説明に関する満足度 （アンケート調査結果は、生駒市立病院ホームページ参照） ＜ご意見箱の主な内容＞ ・外来にも Wi-Fi を開放してほしい （回答：Wi-Fi 環境の整備については、セキュリティの観点や院内電波利用の安全性を考慮し、提供エリアを病棟に限らせていただいております。ご理解いただけるようお願いいたします） ・売店の支払いをキャッシュレス対応にしてください （回答：9 月よりキャッシュレス決済が可能となりました） ・入院中の食事について野菜が多い、出汁について全く味がない、普通食でも炊きすぎて柔らかすぎる （回答：制限のある治療食を提供しており、様々な制約がありますが、多くの患者様に受け入れてもらえるよう、献立や味付けについても見直しを図ります。また調理方法についても見直しを行い、硬さや味付けにメリハリができるよう改善していきます	○放射線治療によるがん治療は、地域がん診療連携拠点病院（近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター）との連携により行われている。 ○脳卒中については、近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター、市立奈良病院及び野崎徳洲会病院等と連携し、早期に治療できる体制を確保している。 ○急性心筋梗塞については、内科的治療（PCI）は行えており、外科的治療が必要なときは、奈良県総合医療センターの心臓血管外科との連携体制を整えている。 ○糖尿病については、糖尿病内科を標榜し、かかりつけ医との連携のもと、慢性合併症等の治療を実施している。 ○入院・外来アンケート調査において、医師及び看護師の患者の不安や要望への傾聴や理解できるような説明を受けたことへの満足度が高い。 課題 医療機関同士がそれぞれの強みを生かして、地域全体として完結し、より質の高い医療を提供できる体制となるよう近隣の医療機関との連携を引き続き進めていく必要がある。

	入院	外来
今回	81.1	83.8
前回	86.9	87.2
ＧＰ全体	85.9	85.1

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
医療における安全管理に対する取組 ●安全管理マニュアルの策定について 　各部署からリスクマネージャーを選任し、院内にリスクマネジメント委員会を設置します。また、リスクマネジメント委員会は隔週開催し、医療安全管理者を中心に報告事例をもとにマニュアル化したうえ便覧を作成、各部署に配布し情報を共有します。	○医療安全管理体制について 　市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修の実施により、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。 　また、医療安全に関する情報公開の方法等については、市立病院管理運営協議会で報告するなど、インシデント・アクシデントの包括的公表を行います。 ・医療安全管理委員会（毎月 1 回開催） ・医療安全カンファレンス（毎週 1 回開催） ・医療安全勉強会（年 2 回開催）	○医療安全管理体制について 　市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会を中心に、インシデント・アクシデントに関する事例の分析、改善方法の院内共有、医療安全研修を実施しました。 　さらに、事故防止の要点や対策について職員に周知徹底することで、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。 ・医療安全管理委員会、医療安全カンファレンスについて計画どおり実施しました。 ・医療安全勉強会 7 月　参加者 80 名 e-ラーニング　301 名受講 12 月　参加者 97 名 e-ラーニング　259 名受講
●医療事故に対する対応について 　発生した医療事故については、関係者から医療安全管理者へ迅速に報告し、その報告をもとに調査を行い、MRM（メディカルリスクマネジメント）委員会で分析したうえ、医療安全推進委員会で討議し対応の決定を行ないます。	○医療事故に対する対応について 　医療事故発生時は、引き続き、次の点について徹底し、院内の総力を挙げて迅速・的確に対応します。 ・患者の安全確保と救命処置を最優先します。 ・病院内における事故等の報告を速やかに行います。 ・患者・家族への事実の説明を誠実かつ速やかに行います。 ・重大な医療事故の場合は、保健所等関係機関へ速やかに報告・届出を行います。 ・事故の再発防止策を早期に検討し、職員に周知徹底します。	○医療事故に対する対応について 　医療事故発生時に備えて、日常から迅速・的確に対応できるよう体制整備に努めました。
●院内感染対策について 　感染防止委員会・リンクナース委員会をそれぞれ定期的に開催し、感染症発生の監視、院内感染の監視、職員の管理（予防接種等）、事故調査及び防止策の検討、職員に対する啓蒙と教育など、感染防止に対する取り組みを行ないます。	○院内感染対策について 　院内の全ての人を院内感染から守るため、継続的に院内感染防止活動に取り組み、感染症のまん延期には、N95 マスクの着用を徹底します。 ・院内感染対策委員会（毎月 1 回開催） ・ICT ラウンド（毎週 1 回開催） ・感染勉強会（年 2 回開催） ・ICT 合同カンファレンス（年 4 回） ・感染対策用として、マスク・消毒液等の備蓄を計画的に行います。 ・新興感染症の感染拡大に備えて、院内に専従の感染管理認定看護師を配置するなど、院内における感染管理をより一層徹底し、臨機応変に対応します。	○院内感染対策について 　院内の全ての人を院内感染から守るため、継続的に院内感染防止活動に取り組みました。 ・院内感染対策委員会、ICT ラウンドについて計画どおり実施しました。 ・感染勉強会 e-ラーニング　2 回開催 合計 741 名　受講 ・ICT 合同カンファレンス 6/23 貝塚記念病院で開催 9/22、12/15, 3/30（Zoom にて開催） ・感染対策用として、計画的にマスク・消毒液等の備蓄を行いました。 ・新興感染症の感染拡大に備えて、院内に専従の感染管理認定看護師を配置するなど、院内における感染管理をより一層徹底しました。

令和７年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題
＜医療安全勉強会の内容＞ ７月　1）　医療機関で義務化されている医療安全対策 2）　医療ガスに及ぼす自然災害の実地と対策 3）　インシデントレポートの書き方 12月　1）　医療放射線について 2）　心理的安全性 ＜感染勉強会の内容＞ e-ラーニング ８月　1）　職業感染について 2）　ＡＭＲって何 3）　インシデントレポートの書き方 ２月　1）　結核について 2）　ＡＷａＲｅ分類について	○合同カンファレンスに参加し、他の病院と感染防止対策についての情報収集や情報共有や意見交換を行うことで、院内感染防止に取り組んでいる。 ○医療安全管理委員会や医療安全カンファレンス、勉強会などが計画通りに行われており、医療安全に関する体制が整備され、事故防止に向けた継続的な改善活動が行われている。 課題 　奈良県をはじめとする関係機関と情報交換しながら、院内における感染管理を徹底するなど、新興感染症の感染拡大に備えておく必要がある。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○地域完結型の医療体制構築への寄与 　地域の病院がそれぞれの機能を分担し、かかりつけ医との連携も含めた地域完結型の医療を目指し、また、患者を中心とした継続性のある医療を提供するため、前方連携と後方連携を考慮し、周辺の地域医療機関との病診連携や病病連携を積極的に推進する。	地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護･福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に努めます。 　病診連携懇話会を開催し、地域医療従事者の情報共有、意見交換の場を提供します。	地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に努めました。
地域医療の支援に対する取組 ●在宅支援機能の充実 　地域連携パスや退院支援チーム等の取組みにより、在宅支援診療所との連携を図りながら、在宅への移行支援を行ないます。 　また、急性期医療の患者を対象とした在宅医療システムを検討実施します。具体的には、在宅患者の増悪時に対応する処置、入院加療用として 5 床を確保します。	○在宅支援機能の充実について 　在宅療養後方支援病院として、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。 　入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図ります。 　地域医療連携室において、引き続き、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携を推進します。	○在宅支援機能の充実について 　増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者の入院加療用病床の確保など、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行いました。 　入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図りました。 　地域医療連携室において、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携に努めました。
●開放型病床の設置 　地域の開業医と連携することにより、診療の一貫性が実現できることから、医師会と病床数や運営方法を協議の上､開放型病床を設置します。		
●地域医療機関への医療教育プログラムの提供 　次の取組を検討し、段階的に実施します。 ・診療科による他医療機関との合同症例検討会の実施 ・院内外の医療従事者に対する TCLS 又は AHABLS、AHAACLS トレーニング（ACLS に相当する指定管理者のプログラム）の継続的実施(2 年に 1 回程度) ・医療機関、救急隊との定期勉強会の実施（年 2 回程度）	○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について 　地域医療従事者の資質向上を目的とした各種症例検討会、講習会を実施します。また､医療教育プログラムへの地域医療従事者の参加を促進します。 ・医療教育プログラム 　新生児蘇生法講習会(NCPR)	○地域医療機関への医療教育プログラムの提供について ・新生児蘇生法講習会（NCPR） 　11/15 病院職員 4 名参加 　1/24　医師、看護師、助産師 15 名参加

令和 7 年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題
＜医療連携登録医＞ 　医療連携登録医からの紹介件数：1,727 件（市内 1,170 件、市外 557 件） （令和 6 年度：2,052 件（市内 1,498 件、市外 554 件）） ＜協力医療機関連携施設＞ 　協力医療機関連携施設からの患者の救急車による搬送件数：72 件 （令和 6 年度：78 件） ＜入退院支援チーム＞ 　市立病院の医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーにより、患者の退院の計画を作成しています。 入退院支援チームの実績	○医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーによる入退院支援チームの活動や入退院調整マニュアルの積極的な活用により、入退院支援加算件数が増加しており、退院後も切れ目のないケアを提供できている。 ○地域の医療機関への医療教育プログラムを提供し、地域の医療従事者の知識や技術の向上を支援している。 課題 　今後、在宅や施設で療養する高齢者の増加が見込まれる中、症状増悪時の速やかな入院や退院時の在宅医療への移行等でのスムーズな対応が求められている。そのためにも、地域の医療機関や介護・福祉施設との交流をより活発に進め関係を強化する必要がある。

	R7	R6	増減
入退院支援加算	2,964件	2,764件	200件
介護支援連携指導	264件	213件	51件
退院時共同加算	38件	45件	△ 7件
退院前・後訪問指導料	98件	0件	98件

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
●周辺の他の医療機関との連携 新病院開院後は、医師会に加入し、医療機器の相互利用やグループ内専門医による研究会、合同カンファレンスの開催、医師会枠としての開放型病床の取組を進めます。 また、連携に賛同された医療機関を写真入りで院内に公開する「かかりつけ医コーナー」を設置し、患者が自由に情報収集でき、希望に応じて紹介状の作成、予約確認等を行い案内するシステムを構築します。 また、地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携等を図る観点から、医師会の協力のもと、地域の診療所や病院を支援する医療機関として、将来的には「地域医療支援病院」の承認を目指します。	○周辺の他の医療機関との連携について 令和 6 年 4 月に市医師会に入会したことを踏まえ、医師会と地域医療の課題を共有し、顔の見える関係を構築することでスムーズな地域医療連携を推進します。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、引き続き、MRI、CT、内視鏡及びエコーの紹介利用を推進します。 市が開催する市内等病院との意見交換会、奈良県が開催する地域医療に関する連絡会等に参加し、「顔の見える関係性」を深めるとともに、会議の場において、積極的に情報提供をします。 ・紹介利用件数（年間） MRI　330 件 CT　170 件 内視鏡　30 件 エコー　50 件 医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の増大を目指し、積極的に PR します。 （令和 8 年 3 月 31 日） ・医療連携登録医　105 施設 ・協力医療機関連携施設　78 施設 地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、さらなる紹介率及び逆紹介率の向上を目指し、紹介された患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡の徹底に加え、紹介を受けた患者以外でも、病院での治療を終え症状が落ち着いたら、その後の継続した観察を必要に応じて地域の診療所に逆紹介します。 ・紹介率　40.0% ・逆紹介率　25.0%	○周辺の他の医療機関との連携について 医師会と地域医療の課題を共有し、顔の見える関係を構築することでスムーズな地域医療連携に努めました。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、医療機器の紹介利用を実施しました。 市が開催する市内等医療機関との意見交換会に参加しました。 ・医療機器の紹介利用件数 MRI　364 件（全利用件数　3,597 件） CT　145 件（全利用件数　11,078 件） 内視鏡 24 件（全利用件数　2,995 件） エコー 89 件（全利用件数　6,622 件） 医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数の増大を目指し、地域医療連携室の職員が地元医療機関を訪問し、登録のメリットを積極的に PR しました。 （令和 8 年 3 月 31 日現在） ・医療連携登録医　107 施設・135 名 ・協力医療機関連携施設　82 施設 ・地域の医療機関への情報提供等訪問回数　1,682 件、 211 施設 （令和 6 年度 1,295 件、 218 施設） 地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介された患者の受け入れに努めました。 また、病状の安定した患者の逆紹介を促進するため、紹介を受けた患者については紹介元へ逆紹介することに加え、紹介を受けていない患者についても、地域医療連携室を通して、患者と相談しながら、患者の住居の周辺の医療機関などへの逆紹介に努めました。 ・紹介率　43.7% ・逆紹介率　18.7%
●地域医療連携推進のための組織・体制及び方法の整備 院内に地域医療連携室を設置し、専任職員（看護師・MSW・介護職員等で構成）を配置します。 この専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズに応え、相互の紹介をはじめ診療情報等提供を行ないます。 また、今後、さらなる地域医療連携を推進するため、医師会等とも十分に協議しながら地域共有型電子カルテネットワークシステムの構築に向けての検討を行います。	○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員(看護師 1 名・メディカルソーシャルワーカー4 名・事務職員 1 名）を配置し、紹介・逆紹介及び入退院調整を推進します。 専任職員が地元医療機関を積極的に訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行います。 やまと西和ネットの活用により、同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携を強化するとともに、来院患者への同ネット参加を呼び掛けます。 市が取り組む在宅医療･介護連携推進事業に参画することにより、地域の医療機関や介護事業者など関係者間の連携強化を図ります。	○地域医療連携推進のための組織・体制及び方法等について 地域医療連携室の専任職員を配置し、紹介・逆紹介及び入退院調整を推進しました。 地域医療連携室の専任職員が地元医療機関を訪問することによって、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行いました。 やまと西和ネットに参加し、同ネット参加医療機関及び介護事業所との患者情報の共有等連携に努めました。 （やまと西和ネットは 11 月 30 日に廃止） 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会及び在宅医療介護推進部会に参加しました。

令和 7 年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

＜医療機器の紹介利用＞

	R7	R6	増減
MRI	364	324	40
CT	145	147	△ 2
内視鏡	24	26	△ 2
エコー	89	55	34

＜医療連携登録医＞

	R7	R6	増減
施設数	107	103	4

・107 施設の内、市内医科診療所は 49 施設・61 名
・市内全医科診療所（84 施設）58.3%

＜協力医療機関連携施設＞

	R7	R6	増減
施設数	82	76	6

＜紹介率・逆紹介率等＞

	R7	R6	増減
紹介率	43.7	38.5	5.2
逆紹介率	18.7	15.6	3.1
地域(市内)医療機関の市立病院利用率	82.1	89.7	△ 10.4

・紹介率
（紹介初診患者数＋初診救急患者数）÷初診患者数
（4,158＋3,030）÷16,467　＝ 43.7%

・逆紹介率　逆紹介患者数÷初診患者数
3,079÷16,467　＝ 18.7%
（参考：紹介元の医療機関に返した入院患者数÷紹介による入院患者数）　433÷844 = 51.3%

・地域(市内)医療機関の市立病院利用率
市内で紹介を受けた医科医療機関数÷市内医科医療機関数
69÷84 ＝ 82.1%

＜生駒市医療介護連携ネットワーク協議会＞
7/17　部会報告や令和 6 年度在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業、連携型 BCP・地域 BCP 策定に関するモデル地域事業の報告

＜在宅医療介護推進部会＞
7/17　・在宅医療介護推進部会のこれまでの取組と課題
・グループワーク(多職種連携研修会、急変時の対応)
11/20　・第 1 回在宅医療介護推進部会グループワークの報告「急変時の対応」
・グループワーク「誰もが使いやすい『私のノート』のあり方」
3/6　・入退院調整マニュアル調査報告
・令和 7 年度事業の活動報告と次年度のスケジュール
・グループワーク「ACP 普及イベント内容の検討」

○地域医療連携室の職員が地域の医療機関を毎月訪問し、診療内容等の周知の取組が強化されていることにより、MRI やエコーの利用件数が増加傾向であり、地域医療連携の推進につながっている。

○患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告等が徹底されている。

課題
逆紹介率を向上させるため、地域の医療機関との連携を強化していく必要がある。

<table>
<tr>
<th>病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)</th>
<th>令和 7 年度　事業計画</th>
<th>令和 7 年度　事業報告</th>
</tr>
<tr>
<td>
１病院の基本方針
新病院のコンセプト
○救急医療の充実
　本地域における二次救急医療に対応できる中核病院の必要性から、内科系、外科系、小児科系の二次救急医療の充実を図る。

●救急医療体制
　市内の二次救急体制で中心的な役割を果たすことを目指し、内科系二次・外科系一次二次輪番体制へ参加するとともに、北和小児科二次輪番体制等への参加や休日夜間応急診療所のバックアップを行います。さらに、救急告示病院として、市消防本部救急隊との連携連絡を緊密にし、かつ当直体制を開示し、24 時間体制での救急受け入れをします。

（具体的な体制）
<table>
<tr><th>診療分野</th><th>稼働内容</th><th>稼働回数
(1 月あたり)</th></tr>
<tr><td>内科系</td><td rowspan="2">市内内科系・外科系一次二次輪番体制への参加</td><td>内科系
5 回</td></tr>
<tr><td>外科系</td><td>外科系
5 回</td></tr>
<tr><td rowspan="3">小児科</td><td rowspan="2">奈良県北和小児科二次輪番体制への参加</td><td>休日
2 回</td></tr>
<tr><td>夜間
2 回</td></tr>
<tr><td>休日夜間応急診療所のバックアップ(休日夜間の一次救急)</td><td>10 回
(※1)</td></tr>
<tr><td>産婦人科
(※2)</td><td>奈良県北和産婦人科一次救急医療体制への参加</td><td>10 回</td></tr>
</table>
（※1)現在､休日夜間応急診療所(メディカルセンター）で小児科医師が当直している火・木・土・日（うち火・木は 22:00～24:00 の当直）以外の曜日を小児一次救急担当日とし、開院当初は、当該担当日の月・水・金は 20 時から 24 時までは総合診療医を配置します。
　ただし、開院後 3 年を目途に小児科医師を 1 名増員することで小児救急の充実を図ります。

（※2）産婦人科については、一次・二次診療を行います。産婦人科緊急手術、分娩、ハイリスク分娩に対応します。但し、未熟児分娩が予想される場合は NICU を有する北和三次救急施設と緊密な連携を取り迅速な対応をします。
</td>
<td>
　救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24 時間 365 日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指します。
　奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施します。

○救急医療体制について
・救急受入件数　　3,200 件
・救急応需率　　95.0 %

・市が開催する市内等病院との意見交換会、奈良県が開催する地域医療に関する連絡会等に参加し、救急医療体制の充実のため病病連携強化を図ります。

・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。

・小児科の救急医療や入院医療の体制を充実させ、引き続き、奈良県と情報交換をしながら、北和小児科二次輪番体制に寄与します。

・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるように、産婦人科診療体制づくりを進めます。
</td>
<td>
　救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24 時間 365 日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実に努めました。
　奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院等との連携のもと、救急患者の状態に応じた適切な救急医療を実施しました。

○救急医療体制について
・救急受入件数　3,031 件（市内　1,709 件、市外 1,322 件）
・救急応需率　　96.0%

・市が開催する市内等医療機関との意見交換会に参加しました。

・市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たしました。

・令和 5 年 4 月から、北和小児科二次輪番体制へ月 2 回参加しています。

・7/17　令和 7 年度第 1 回北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会
　2/5　令和 7 年度第 2 回北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会　　に出席

・北和産婦人科一次救急医療体制への参加については、将来的な奈良県からの参加要請に対応できるように、産婦人科診療体制を整備しています。
</td>
</tr>
</table>

令和7年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

＜救急要請件数＞

年　度	R7	R6	増減
件　数	3,156	3,643	△ 487

＜救急受入件数＞

年　度	R7	R6	増減
市　内	1,709	1,708	1
市　外	1,322	1,593	△ 271
計	3,031	3,301	△ 270

＜救急応需率＞

年　　度	R7	R6	増減
救急受入件数÷救急要請件数	96.0%	90.6%	5.4%

＜ウォークイン患者受入件数＞

年　度	R7	R6	増減
件　数	4,041	4,440	△ 399
月平均	336.8	370.0	△ 33.2

＜救急患者の転送件数＞

年　　度	R7	R6	増減
受入件数	3,031	3,301	△ 270
県内転送	152	118	34
県外転送	43	37	6
転 送 計	195	155	40

＜救急患者の転送率＞

	R7	R6	増減
県内転送	5.0%	3.6%	1.4%
県外転送	1.4%	1.1%	0.3%
転 送 計	6.4%	4.7%	1.7%

＜参考：生駒市消防の救急搬送状況＞※（注）
（全時間帯）

年度		R7	R6	増減
市内		4,091	4,010	81
	市立病院	1,709	1,696	13
	その他の病院	2,382	2,314	68
市外		1,489	1,618	△129
合計		5,580	5,628	△48

（当直時間帯）

年度		R7	R6	増減
市内		2,145	2,089	56
	市立病院	1,032	1,000	32
	その他の病院	1,113	1,089	24
市外		923	974	△51
合計		3,068	3,063	5

※市消防本部提供、速報値

＜市内等輪番病院のバックアップ状況＞

年度	R7	R6	増減
バックアップ率	52.9%	41.2%	11.7%

計算式　生駒市立病院が受け入れた件数÷救急患者を市内等輪番病院が当番日に受け入れできなかった件数

（令和7年度：99件÷187件、令和6年度：101件÷245件）

注）
表中の%は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、計と内訳の計が一致しない場合があります。

○24時間365日救急患者の受入体制を整え、発熱患者を断らない方針のもと、救急応需率は高い数値を維持している。

○市立病院の設立目的である市内の小児医療の充実のため、北和小児科二次輪番体制へ令和3年10月以降参加している。

○市内内科系二次･外科系一次二次輪番体制への参加には至っていないが､輪番病院で受け入れできなかった患者の受け入れも可能な限り対応するなど､輪番体制のバックアップとしての役割を果たしている。

課題
救急患者の転送率について､患者の症状によりやむを得ない場合もあるが､市立病院の設備で対応可能な患者はできる限り完結できるよう､医師等の人員体制を強化する必要がある。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
●救急に対する人員体制 医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師及び事務職員の当直体制をとります。 （具体的な体制） **人員体制** 通常時：内科系・外科系医師各 1 名、検査技師・放射線技師･薬剤師各 1 名の当直体制 北和小児科二次輪番日：通常時当直体制＋小児科医師 1 名の当直 休日夜間応急診療所のバックアップ(小児科)担当日：通常時当直体制＋総合診療医 1 名を 20 時～24 時の間で配置 北和産婦人科一次救急当番日：通常時当直体制＋産婦人科医 1 名の当直	○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直･オンコール体制のさらなる充実を目指します。 （夜間救急受入体制） ･医師　1 名の時間外担当医及び 1 名の常勤当直医の 2 名体制 各診療科専門医によるオンコール体制 ・外来看護師　　2 名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員　各 1 名の当直 ・臨床工学技士　オンコール体制	○救急に対する人員体制 救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を整備するとともに、当直・オンコール体制のさらなる充実を図りました。 （夜間救急受入体制） ・医師　1 名の時間外担当医及び 1 名の常勤当直医の 2 名体制 各診療科専門医によるオンコール体制 ・外来看護師　2 名の当直 ・放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員　各 1 名の当直 ・臨床工学技士　オンコール体制
●診療科毎の対応レベル **診療科／対応レベル** 内科(二次輪番)：諸検査(CT･MRI・X 線･血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の呼吸･循環･腎不全等は対処不能) 外科・整形外科・脳神経外科(二次輪番)：諸検査(CT･MRI･X 線･血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(例:重症の多発外傷や重症熱傷等は対処不能) 小児科(二次輪番)：諸検査(CT・MRI・X 線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可 産婦人科(二次輪番)：諸検査(CT・MRI・X 線・血液等)及び緊急入院は可、二次救急レベルまで対応可(未熟児出産を伴う早産は未熟児センターと連携するまで対応不可)	○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X 線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続します。また、CAG による心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を充実します。 産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き、奈良県総合医療センターとの連携体制で対応します。	○救急についての診療科毎の対応レベルについて 休日・夜間の診療対応レベルは、CT、MRI、X 線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制を継続しました。また、CAG による心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を維持しました。 産婦人科のハイリスク分娩については、引き続き、奈良県総合医療センターとの連携体制が確立しています。

令和7年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

＜医師のオンコール体制＞
　消化器内科、循環器内科、外科、形成外科、腎臓泌尿器科、産婦人科、小児科

・脳神経外科については、他病院との連携体制で対応
　連携実績

	R7	R6	増減
近畿大学奈良病院	9件	3件	6件
奈良県総合医療センター	15件	13件	2件
阪奈中央病院	12件	10件	2件
市立奈良病院	10件	6件	4件
野崎徳洲会病院	16件	6件	10件
石切生喜病院	14件	14件	0件

○当直可能な常勤医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の24時間365日の救急受入体制が維持されている。

○24時間365日、病院事業計画に掲げるCT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制が継続されている。

課題
　整形外科･脳神経外科の常勤医師の確保･増員に努め、外傷患者等への救急受入及び処置が可能な体制を整備する必要がある。

・当直時間帯でのCT、MRI検査、心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術の各実績

	R7	R6	増減
CT	2,954件	2,804件	150件
MRI	251件	168件	83件
心臓カテーテル検査	10件	7件	3件
内視鏡検査	13件	23件	△ 10件

＜在宅医療・救急医療連携にかかる調査・セミナー事業＞
　生駒市、生駒市消防、生駒市医師会、生駒市の二次輪番病院、市立病院、奈良県が参加する在宅医療・救急医療連携にかかる調査・セミナーに、市立病院の看護師、救急救命士が出席した。
　この事業は、地域における在宅医療・救急医療等の関係者間の連携体制の構築を支援し、人生の最終段階において本人の意思が尊重される環境を整備することを目的とした厚生労働省の事業として実施されています。

　開催日：1/22、2/26

○市立病院の地域医療連携室や救急部門の職員が出席し、市立病院での状況説明や意見交換を行うことで、医療機関との連携を高めることにつながっている。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○小児医療の充実 　本地域における小児二次医療の充実の必要性から、地域医療機関との役割分担のもと、二次医療までの対応が可能な小児医療を提供する。	小児の救急対応、入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の充実を図ります。 ○小児医療体制について 　小児科の救急医療や入院医療の体制を充実させ、引き続き、奈良県と情報交換をしながら、北和小児科二次輪番体制に寄与します。	小児の入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の整備に努めました。 ○小児医療体制について ・北和小児科二次輪番体制へ、令和 7 年上半期月 2 回、下半期月 2 回参加しました。
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○災害時医療の確保 　大規模災害時において、傷病者の受入れや医療救護に対応可能な応急用医療資機材等を備えるなど、災害に対する緊急対応ができる機能を確保する。	大規模災害時において、傷病者の受け入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備します。 　生駒市災害対策本部及び生駒市医師会災害対策本部と緊密な連携協力体制の下、市内 4 病院とともに後方支援病院として災害時医療を担います。 ○災害時医療体制の確立について 　災害対策マニュアルに沿って、現場スタッフや地域住民が参加する実地訓練を行います。 ・消防訓練　（通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練） ・防災訓練　（トリアージ・患者受入訓練・机上訓練） 市が主催する『災害時における医療救護体制の整備に関する会議』の議論を踏まえた取組を進めます。	○災害時医療体制の確立について ・消防訓練　　4/25 実施　59 名参加 消火器・ストレッチャー訓練 12/26 実施　30 名参加 出火、防火扉確認、消火器訓練、トランシーバー訓練 ・防災訓練　　9/19 実施　30 名参加 地震想定で電子カルテシステムダウンでの机上訓練 ・災害時医療提供として、救護所開設検討会議に参加しました。 ・災害拠点病院である近畿大学奈良病院が開催した災害訓練に、医師や看護師が参加しました。
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○予防医療の啓発 　市立病院であることから、市民の公衆衛生意識の高揚を図るための講習を行うなど、市の保健行政と連携し、保健知識の啓発を図る。 ●疾病予防機能の強化について 　疾病予防に向けて、メタボリック・シンドロームや生活習慣病等についての医療講演会を定例的に開催します。(講演会の講師は医師、看護師、管理栄養士、理学療法士等病院内のスタッフや院外の医療従事者が務めます。) 　また、市民健診や予防接種について、市医師会と連携して、二次健診の分担等の協力体制を整備します。	更なる市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識野菜新の情報を医療講演会を通して提供します。 ○疾病予防機能の強化について 　市民の健康づくりや疾病予防を促進するため、院内講演の充実に加え、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施します。 　市民の幅広い年代層が健診を受けやすくするよう努めます。 　乳幼児への定期予防接種を引き続き実施します。 ・市民健診 大腸がん検診　220 件 胃がん(胃内視鏡)検診　60 件 乳がん検診　400 件 子宮頸がん検診　350 件 肝炎ウイルス検診　20 件 特定健診　1,150 件 一般健診　1,700 件 人間ドック・脳ドック　2,500 件 その他団体健診等　2,000 件 ・乳幼児健康診査　120 件 ・高齢者定期予防接種 インフルエンザ　800 件 肺炎球菌　20 件 ・小児定期予防接種　1,000 件	市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供しました。 ○疾病予防機能の強化について 　市民との交流、健康づくりを推進するため、医療講演会を定期的に開催しました。 ・医療講演会 73 講座　参加者 2,387 名 （内、生駒市医師会や自治会等各種団体への出張講座　7 講座　参加者 505 名含む） ・どこでも講座・出前授業 8 講座　参加者 526 名 ・人間ドック受診者を増やす取組として、開院 10 周年を記念した人間ドック受診キャンペーンを実施しました。 ・市民健診 大腸がん検診　265 件 胃がん(胃内視鏡)検診　103 件 乳がん検診　411 件 子宮頸がん検診　336 件 肝炎ウイルス検診　7 件 特定健診　1,258 件 一般健診　1,770 件 生活保護者等の健康診査　10 件 人間ドック・脳ドック　2,601 件 その他団体健診等　2,038 件 ・乳幼児健康診査　135 件 ・高齢者定期予防接種 インフルエンザ　704 件 肺炎球菌　27 件 ・小児定期予防接種　979 件

令和７年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題

<小児科二次輪番体制当番日の患者数>

		R7	R6	増減
入院	救急車	29	12	17
	その他	33	26	7
	計	62	38	24
外来	救急車	49	44	5
	その他	114	82	32
	計	163	126	37
合計		225	164	61

○市立病院の設立目的である市内の小児医療の充実のため、北和小児科二次輪番体制へ令和３年10月以降参加している。

○産科と小児科を有していることから、産科での出生児の診療や１か月健診は小児科が担当している。また、胎児へのリスクの高い分娩には小児科が立ち会うなど、産科と小児科が連携することで、安心して出産できる体制が整備されている。

○救護所開設検討会議や近畿大学奈良病院の災害訓練に参加することで、市立病院が市内の医療機関と共に災害時医療提供に向け、検討を進めていく機会となった。

課題
　防災訓練を行う際には大規模災害を想定し、市災害対策本部、医師会災害対策本部や地元自治会と連携協力体制で実施する必要がある。

＜医療講演会（出張講座含む）＞

	R7	R6	増減
件数	73	38	35
参加者数	2,387	810	1,577

＜医療講演会の内容例＞
・帯状疱疹と痛み～知っておきたい、その正体と対策について
・おしっこの異常に気がついたら

＜市民健診＞

	R7	R6	増減
大腸がん検診	265	236	29
胃がん（胃内視鏡）検診	103	48	55
乳がん検診	411	462	△ 51
子宮頸がん検診	336	407	△ 71
肝炎ウイルス検診	7	16	△ 9
特定健診※1	1,258	1,144	114
一般健診	1,770	1,654	116
生活保護者等の健康診査※2	10	6	4
人間ドック・脳ドック	2,601	2,597	4
その他団体健診等	2,038	1,950	88
合計	8,799	8,520	279

※1　生活習慣病を予防・早期発見するための健診です。
※2　健康増進法施行規則第４条の２第４号に定める健康診査

<高齢者定期予防接種>	R7	R6	増減
インフルエンザ	704	832	△ 128
肺炎球菌	27	18	9

	R7	R6	増減
<小児定期予防接種>	979	1,149	△ 170

○医療講演会やどこでも講座・出前授業の開催に積極的に取り組み、実施件数や参加者数の大幅な増加につながっている。

○健診体制の充実をはじめ、ドック受診者が少ない時期に開院10周年を記念した人間ドック受診キャンペーンを展開するなどの取り組みにより、市民健診の受診者数が増加している。

課題

　医療講演会やどこでも講座・出前授業について、参加者の幅も広げていくため集客力が高い施設に出向くなどの工夫も行い、市立病院を知らない市民へのアプローチを進めていく必要がある。

病院事業計画(平成 27 年 11 月改定)	令和 7 年度　事業計画	令和 7 年度　事業報告
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○市民参加による運営 　条例で設置された市民の代表が参加する病院事業推進委員会において、運営の基本となる病院事業計画、指定管理者との協定及び運営状況の改善について審議し、市民参加による病院運営を実現する。	市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進します。 　令和 6 年度に実施したワークショップにおいて提案された意見について可能なものから対応を進めていきます。また、市民にとって親しみを感じられる病院を目指し、各種市民交流行事を開催します。 ○市民の意見の反映の仕組み 　入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見及び対応について、ホームページや院内掲示での公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告等、広く市民等に周知します。 　また、年度事業報告書に係る実施状況調査について市立病院管理運営協議会等で評価、意見聴取し、年度事業計画に反映します。 ○市民交流事業について 　市民に親しみを感じてもらえる病院を目指すために、市民交流事業を開催します。 （主な市民交流事業） ・開院 10 周年記念イベント（6 月開催予定） ・健康フェスティバル（11 月開催予定） ・院内コンサート	市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進しました。 ○市民の意見の反映の仕組み 　グループ全体で実施した令和 7 年度入院・外来患者アンケート調査の結果について、令和 8 年 5 月のホームページに掲載予定です。 　さらに、ご意見箱の内容に対して、対応が必要な案件については、迅速に対応しました。 　また、年度事業報告書に係る実施状況調査については、市立病院管理運営協議会等で評価、意見聴取し、次年度の事業計画作成時に反映させる予定です。 ・退院時に市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。 ○市民交流事業について ＜開院 10 周年記念イベント＞ 　6/15(日)開催　延べ 2,200 名 ＜健康フェスティバル＞ 　11/9（日）開催　延べ 1,825 名 ＜院内コンサート＞ 　クリスマスコンサート 　12/20（土）開催　延べ 90 名
1 病院の基本方針 新病院のコンセプト ○環境に配慮した運営 　新病院の運営にあたっては、環境マネジメントシステムである ISO（国際標準化機構）14000 シリーズの認証取得を目指す。	引き続き、市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進します。 ・ミックスペーパー等資源ごみの分別回収を強化します。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知することで、院内での省エネルギー化の啓発を図ります。	引き続き市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組を推進しました。 ・ミックスペーパー等資源ごみの分別回収を強化しました。 ・日々の電気・ガス・水道使用料を毎朝のミーティングで幹部職員に周知し、院内での省エネルギー化の啓発を図りました。

令和 7 年度　事業報告の補足説明	取組の評価・課題
＜生駒市病院事業推進委員会＞ ・ 5/20　第 33 回会議 会議内容　・生駒市病院事業計画改定について ・ 7/22　第 34 回会議 会議内容　・生駒市病院事業計画改定について ・ 9/19　第 35 回会議 会議内容　・生駒市病院事業計画改定について ・ 1/27　第 36 回会議 会議内容 ・生駒市病院事業計画の一部改定について（収支計画の変更） ・令和 8 年度生駒市立病院の管理運営に関する年度協定書(案)について ・奈良県における病床配分について(報告) ＜生駒市立病院管理運営協議会＞ ・ 8/26　令和 7 年度第 1 回会議開催 会議内容　・令和 6 年度実施状況調査報告書(案)について ・生駒市立病院開院 10 周年記念式典について(報告) ・2/17　令和 7 年度第 2 回会議開催 会議内容 ・令和 8 年度事業計画書について ・奈良県における病床配分について(報告) ＜医療のまちづくりビジョン策定懇談会＞ 市が「医療のまちづくりビジョン」策定にあたって開催された懇談会。 10/21　第 1 回 11/21　第 2 回 2/10　第 3 回 懇話会での議論やパブリックコメントなどを経て、令和 8 年 2 月に策定されました。	○退院時に市立病院が独自で行う患者アンケートを実施し、患者の意見を集約している。この意見を参考にして入院される方が良好な環境で過ごせるように努めている。 ○病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会において、市民等に情報を提供し、意見を聴取することで、市民参加による病院運営が可能となっている。 ○生駒市立病院開院 10 周年記念式典を市と協力して、開催し、10 周年を迎えることができた感謝と市立病院のことについて多くの市民に知ってもらえる機会となった。 課題 健康フェスティバルなどのイベント等、より多くの市民に生駒市立病院を知っていただく機会づくりに今後も取り組んでいく必要がある。
	○市組織と同等の取組が実施されている。

収支

（単位：千円）

令和７年度事業計画（令和７年３月末）(a)		令和７年度事業報告　(b)		計画と報告の差額　(b)-(a)	
医業収入	5,500,000	医業収入	5,449,733	医業収入	△50,267
医業費用	5,241,000	医業費用	5,050,914	医業費用	△190,086
医業利益	259,000	医業利益	398,819	医業利益	139,819
医業外収益	35,000	医業外収益	586	医業外収益	△34,414
医業外費用	12,000	医業外費用	355	医業外費用	△11,645
経常利益	282,000	経常利益	399,050	経常利益	117,050